

施策番号 2-1-4	施策名 地域林業の推進	基本目標	豊かな自然を生かした活力ある農業のまちづくり		
		政策名	基幹産業の農業に対する支援の強化		
	主管課 農林課	課長名	手島 旭	内線	410
	施策関係課				

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対象	意図				結果		
森林が持つ多面的機能の理解促進と、機能に応じた森林の整備・保全をすすめます。		町民・町有林・私有林・森林所有者	<ul style="list-style-type: none"> <li>森林が持つ多面的な機能について町民の理解を深める</li> <li>計画的な保育・造成等により森林を適正に管理する</li> </ul>				森林の持つ多面的・公益的機能（災害防止・水源かん養・生物多様性の保全・生活環境の保全・地球温暖化防止など）が発揮される		
成果指標	説明	単位	年度(策定時)	27年度	28年度	29年度	30年度(目標)		
① 森林が持つ多面的機能を知っている町民の割合	住民意識調査	%	72.1	73.4	85.5	80.0	80.0		
② 適正に管理されている町有林面積の割合	森林調査簿より	%	98.7	99.1	99.0	99.0	99.0以上		
③ 適正に管理されている私有林面積の割合	森林調査簿より	%	95.2	94.3	94.4	96.0	96.0		
成果指標設定の考え方	①森林が持つ多面的機能を理解したと思われる町民が急に増えるとは思われないため、当面の間は80%を目指すものとする。②すでに99.2%に達しているため、今後は限りなく100%に近い適正管理面積を目指すものとする。③後期実施計画から町有林と民間所有の私有林の適正管理面積を分割した。木材市況が不安定な状況や所有者の意向に左右される側面もあるが、啓発活動等により現状より約1%増の96%を目標に設定								

2. 施策の事業費

	27年度決算	28年度決算
施策事業費(千円)	43,956	34,873
人工数(業務量)	0.6935	0.8030

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察			
①平成28年度の成果評価(前年度比較)	<input type="checkbox"/> 成果は向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果は変わらなかった <input type="checkbox"/> 成果は低下した	想定される理由	町有林の施策については、ほぼ計画通り実施できたが、8月以降の台風被害の影響などで計画的修繕などの維持管理や自然観察会、育樹祭など実施できないものがあった。
②平成30年度の目標値達成見込み	<input type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標は達成できる <input checked="" type="checkbox"/> 現状の取り組みの延長で目標達成は難しいが、現行事業の見直しや新規事業の企画実施で目標達成は可能 <input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施をしても目標達成は難しい	根拠(理由)	<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な管理に関する指標について、町有林については予算を確保し、各種計画に基づいて実施しており、目標達成している。</li> <li>森林が持つ多面的機能の町民理解については、近年の風水害に対応する森林の重要性が認知されてきたと考えることができるが次年度以降の推移をみて分析。</li> <li>私有林については労務単価の増加などによる事業費増加もあり、整備に着手できないケースが多くポイントがアップしない。この項目については、所有者自らが取り組むことが必要であり、目標達成は難しい。</li> </ul>
(2) 施策の成果評価に対する平成28年度事務事業の総括			
①施策の成果向上に対して貢献度が高かった事務事業	町有林管理事業 ふるさと森づくり事業	②施策の成果向上に対して貢献度が低かった事務事業	
③事務事業全体の振り返り(総括)	<ul style="list-style-type: none"> <li>町有林管理事業、民有林振興事業ともに、補助制度などを活用しながら適宜、必要な施策を実施した。</li> <li>地図情報のデータ化が実現し、今後、農業振興地域や林班地域管理の効率的な事務推進とサービス向上が図られる。</li> <li>ふるさと森づくり事業は森林の重要性にかかる意識啓発を目的に、「町民植樹祭」、「昆虫観察会」を行った。「町民育樹祭」は災害のため休止。</li> <li>昨年の台風被害によって、162日間の通行不能期間があった。大きな災害であり通行不能はやむを得ない部分もある。災害前の時期については、通行や農作業に支障のあるケースには迅速かつ的確に対応したと考えている。</li> </ul>		

**(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果**

進捗結果	A	B	C	D	E
			○		

※該当に○印

- A: 実現した
- B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した
- C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した
- D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない
- E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した

**4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等**

施策を取り巻く状況と今後の予測	東日本大震災、原発事故、本町における昨年の台風被害なども踏まえて、森林の重要性や環境保全、多面的機能が再認識され始めている。町有林管理にあたっては国の予算も増加傾向であり、森林整備に取り組みやすい環境となってきたところ。ただし、民有林については、所有者の意向が最優先であり、民有林の森林整備はなかなか進まない現状である。有利な補助事業の活用に向けて、森林組合などとも連携を図りながら民有林整備を推進する活動を行っていく必要がある。また、近年の異常気象により、風害・土砂崩れなどの被害が増加傾向にある。
この施策に対して住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか？	

**5. 施策の課題認識(現状の課題、新たにに取り組むべき課題)**

<ul style="list-style-type: none"> <li>●課題① 森林所有者への周知・啓発 町有林、私有林ともに、近年の風雪による森林被害が増加している状況。労務単価の増大などにより、維持管理に関する費用が増加していく傾向にあると考える。特に私有林については、補助事業などの活用を含めて、森林所有者への周知・啓発活動を推進すべきと考えている。</li> <li>●課題② 森林経営計画の策定 「森林整備計画」の実施計画である「森林経営計画」は、平成30年度からとなる新規計画の策定に向けて検討を進める。</li> <li>●課題③ 周知・啓発事業の見直し 森林の持つ多面的機能を周知する事業として、「植樹祭」、「育樹祭」、「昆虫観察会」を実施してきたが、参加者の固定化、町有林における植樹・育樹箇所の減、昆虫観察会の手法検討などの課題があるため、今後のあり方について、検討していきたい。</li> </ul>
---

**6. 総合計画推進委員会(庁内評価)**

評価	防災意識の高まりからか、成果指標も大きく向上しており、後期実施計画策定時と比較して前進していると言える。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	啓発事業の実施については、手法を検討し、より良い在り方について検討してもらいたい。	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				

**7. 総合計画審議会(外部評価)**

評価	災害時も的確に対応し、各事業においてもほぼ順調に取り組まれていたことから前進したと評価する。	A	B	C	D	E
		進捗結果			○	
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>●私有林の管理について、災害につながることもあることから適切な管理に向け、周知・啓発など取り組みを進めてほしい。</li> <li>●地域材の利用促進の取り組みを進めてほしい。</li> <li>●森林が持つ多面的機能について、どのように発揮され、いかに大切なのかなど、更なる周知が必要ではないか。</li> </ul>	A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して)大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して)前進した D: (後期実施計画策定時と比較して)変わらない E: (後期実施計画策定時と比較して)後退した				